

銀行から設備投資の資金を 借り入れた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：新しいワークスペースをつくるって聞きました。楽しみです。

先輩：会社としても多様な働き方に対応するということが正しいよ。

新人さん：個別ブースでオンラインの打合せができる、周囲の音を気にせず集中できますね。

先輩：ああ、こういう時代だからこそ、1人ひとりの生産性を上げていかないとね。

新人さん：ところで、その設備投資の資金はどうする予定なんですか？

先輩：金利も安いから金融機関から3年返済で借りる予定みたいだよ。

○解説

「長期借入金」とは、金融機関、取引先、親会社、役員などの第三者から資金を借り入れた場合に生じた金銭

債務で、返済期限が1年を超えるものを処理する勘定科目です。

「長期借入金」は固定負債に計上されますが、返済期限が1年以内の借入金は「短期借入金」として流動負債に計上します。この区分の基準を1年基準（ワンイヤールール）といいます。

借入金に分割返済の定めがある場合、そのうち1年以内に返済を予定している部分については、「長期借入金」から「1年以内返済予定長期借入金」に振り替えて流動負債に計上します。実務上は、期中は「長期借入金」のままにしておき、期末に振り替えることが多いです。なお、重要性に乏しい場合は、そのまま「長期借入金」として固定負債に計上しておくこともできます。

株主や役員からの借入金は、金融機関と取引条件が異なる場合が多いので、「役員長期借入金」等の別の勘定科目を設けて区分表示するか注記します。



ケース1 長期の借入れをした場合

×0年4月1日、○銀行と3,000万円を借り入れる金銭消費貸借契約を締結し、当座預金口座に入金された。返済期限は×3年3月31日で利息は年2%。年度末に元本と一括して支払うことになっている。

【借方】 当座預金 30,000,000 / 【貸方】 長期借入金 30,000,000

ケース2 借入金を返済した場合

×1年3月31日、ケース1の借入金の元本1,000万円と利息60万円を合わせて、小切手を振り出して返済した。

【借方】 長期借入金 10,000,000 / 【貸方】 当座預金 10,600,000
支払利息 600,000

ケース3 借入金を振り替える場合

決算（×1年3月31日）において、来年度に返済予定の長期借入金を振り替えた。

【借方】 長期借入金 10,000,000 / 【貸方】 1年以内返済予定長期借入金 10,000,000